

作文は、コツが分かれば誰にでも書くことができます。日本には昔から「書く」教育の伝統が息づいています。

(国語作文教育研究所の宮川俊彦先生から学んでいます。)

前に、「楽しい」「おもしろい」と書かない方がよいという話をしました。また会話を入れるとよいという話もしました。もうひとつ、大切なことがあります。それは、**一つの場面だけを切り取って、目で見たとことか、まわりの様子を順番に書くことなんです。**

むずかしい言葉ですが、「**描写**」といいます。

### 作文を書くコツ ③

「楽しかった」「おもしろかった」と書くのは×です。

◎は、自分が「見たこと」を順番に書くのです。

次の作文で、目を使って書いているのはどんでしようか？ 答えは太字で書いておきました。

**もう一つ〇があります。それは、「一つの文」。**。まどくが、とても短いことです。短いので緊張感や、リズム感が出ます。これもよい作文なのです。

よく読んで、上手な書き方を、まねしましょう。

### 【例】

皿ひらの上の石鯛いしだい

小三

上がる温度。太陽も上る。それにうづうづい、

海も光った。

早朝。四時半、ぼくは海の中に仕かけを入れた。

まわりはつれていない。が、つれる可能性はある。

ところがサオは、びくりともしない。時間だけがすぎていく。

いつもの鳥もいない。

「アアアアアア！」

やっとアアアア鳥(よび名、本名ではない)がないた。

この鳥がなくと、魚がよくつれる。

とそのとき、サオ先がはげしくゆれた。魚がかかったらしい。

これは、鳥がない直後の魚だ。運がいいとしかいえない。

ぼくは糸をまいた。魚がうき出てくる。その魚とは……

石鯛だった。

「オオー」

おもわずさけんでいた。非常に引きがつよいから、父に

あみですくってもらった。その二十一センチもある石鯛の目が、

「食うな！」

と言っているように見えた。

でも、ぼくは、やいて食べた。